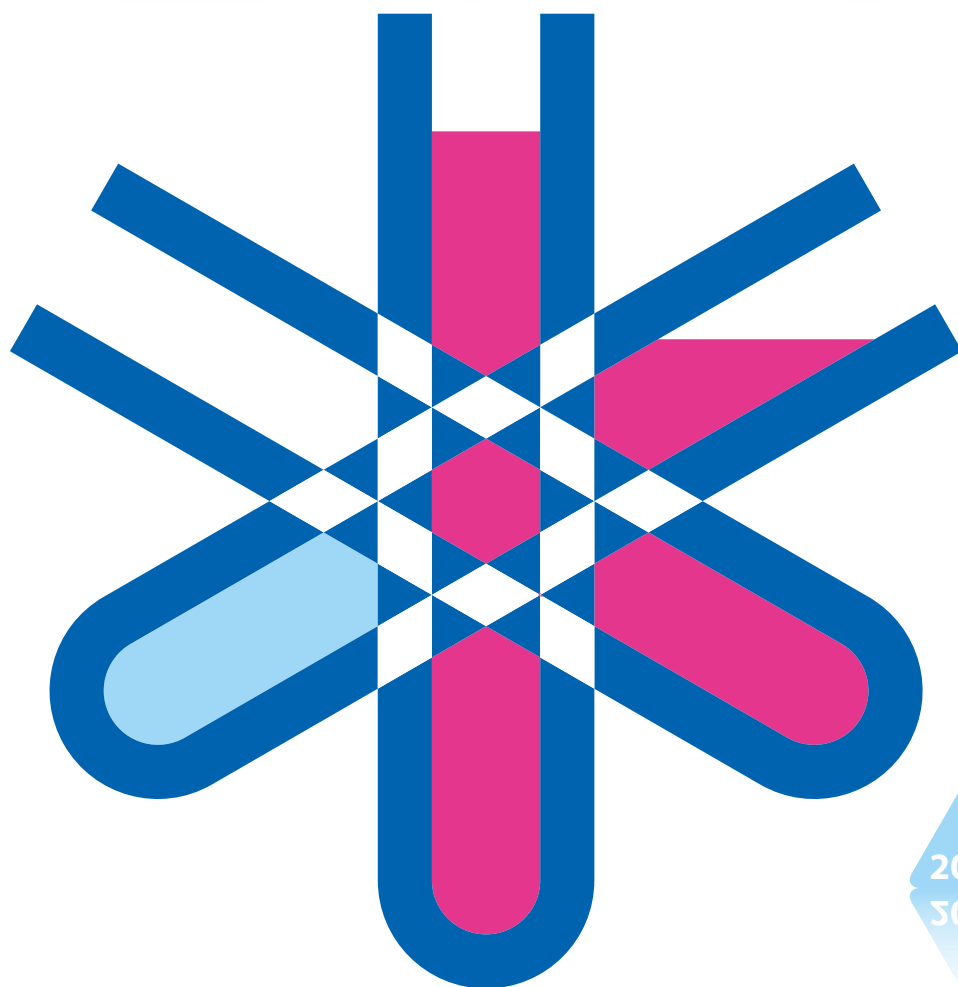


横査情報月報



2025
5052

10
10

横浜市衛生研究所

令和7年10月号 目次

【検査結果】

夏期食品収去検査結果（令和7年度）	1
農産物の残留農薬検査結果（令和7年7月～8月）	4

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年9月）	6
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和7年9月）	7
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

夏期食品収去検査結果（令和7年度）

夏期食品等一斉点検は、厚生労働省から出された「令和7年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されるものです。

本市においても令和7年6月1日から8月31日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。

期間内に医療局食品専門監視班と各区福祉保健センターが収去し、搬入された検体について、当所が行った検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

菓子類、清涼飲料水、野菜類・果実及びその加工品等の食品153検体（輸入品115検体、国産品38検体）について、保存料、着色料、甘味料など3,032項目の検査を実施しました（表1）。

市内で製造された菓子から、原材料に着色料の表示がない検体から着色料が検出されました。収去担当部門で製造者の調査を行っています。

また、原材料由来と思われる保存料を検出した検体や製造過程で消失したと思われ、酸化防止剤使用の表示が記載されているが検査で不検出となった検体等11検体については、収去担当部門が輸入者等を所管する自治体に調査を依頼しています。

表 1 食品添加物検査

令和7年6月～8月

食品分類	* 検 体 数	項 目 数	検査項目						
			保 存 料	着 色 料	甘 味 料	酸 化 防 止 剤	品 質 保 持 剤	発 色 剤	漂 白 剤
菓子類	39	720	87	476	78	78			1
清涼飲料水	22	617	212	340	63	2			
酒精飲料	10	158	51	85	12	10			
かん詰・びん詰食品	32	582	99	374	49	57			3
乳製品	1	20		20					
アイスクリーム類・氷菓	1	19		17	2				
肉卵類及びその加工品	2	42	6	34				2	
魚介類加工品	9	104	27	51	18	6	2		
穀類及びその加工品	3	71	6	56	0	9			
野菜類・果実及びその加工品	12	212	26	153	18	12			3
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	1	19		17	2				
無加熱摂取冷凍食品	1	19		17	2				
その他の食品	20	449	85	306	36	22			
合 計	153	3,032	599	1,946	280	196	2	2	7

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

規格基準検査の内訳は、魚介類9検体、冷凍食品4検体、肉卵類及びその加工品3検体、乳製品2検体、アイスクリーム類3検体、清涼飲料水15検体、計36検体49項目でした。検査の結果、加熱食肉製品（加熱後包装）1検体、アイスクリーム1検体が規格基準^{*1}違反となりました（表2）。

また、細菌の成分規格のないその他の食品98検体は、旧衛生規範^{*2}の項目について検査を実施しました。ふきとり24検体は独自項目について検査を実施しました（表3）。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

^{*2} 旧衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。食品衛生法の改正に伴い令和3年6月1日廃止されました。

横浜市では現在、食品営業者への衛生指導のための参考値として、衛生規範で示された数値を使用しています。

表2 規格基準検査結果

令和7年6～8月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反 検体数
魚介類			
生食用鮮魚介類(刺身用切り身等)	9	9	0
冷凍食品			
無加熱摂取冷凍食品	1	2	0
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	1	2	0
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	2	4	0
肉卵類及びその加工品			
加熱食肉製品(加熱後包装)	3	9	1
乳製品			
ナチュラルチーズ(ソフト及びセミハードに限る)	2	2	0
アイスクリーム類			
アイスクリーム	2	4	1
アイスマルク	1	2	0
清涼飲料水			
清涼飲料水	14	14	0
ミネラルウォーター(殺菌又は除菌有)	1	1	0
合 計	36	49	2

表3 その他の細菌検査結果

令和7年6～8月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数
穀類及びその加工品		
ゆでめん・むしめん	1	3
生めん	3	9
菓子類		
洋生菓子	3	9
その他の食品		
加熱そうざい・弁当類(加熱品)	45	189
未加熱そうざい・弁当類(未加熱品)	22	66
ふきとり		
ふきとり(器具等)	24	38
合 計	98	314

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

農産物の残留農薬検査結果(令和7年7月～8月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和7年7月から8月に医療局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

市内産農産物については、7月にばれいしょ8検体、にんじん7検体、きゅうり及びなす各4検体、えだまめ、すいか及びピーマン各1検体の計26検体、8月になす5検体、かんしょ、きゅうり、こまつな、とうがん、にんじん及びばれいしょ各1検体の計11検体、合計で37検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。きゅうり2検体、こまつな、なす及びばれいしょ各1検体から延べ6項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものではありませんでした。

検査項目及び検出限界については、表2に示しました。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果

(令和7年7月～8月)

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
えだまめ	1	0			
かんしょ	1	0			
きゅうり	5	1	クロルフェナピル	0.10	0.5
		1	ジノテフラン	0.02	2
こまつな	1	1	ジノテフラン	0.07	10
			メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	1
すいか	1	0			
とうがん	1	0			
なす	9	1	アゾキシストロビン	0.03	3
にんじん	8	0			
ばれいしょ	9	1	チアメトキサム	0.01	0.3
ピーマン	1	0			

注) 中括弧()は同一検体から検出されたもの

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					
		A	B	C	D	E	F			A	B	C	D	E	F
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○	—	○	—	○	○	エンドリン	0.005	○	—	—	—	○	—
DDT(DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	カルプロバミド	0.01	○	○	○	○	—	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	—	○	クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	○
アセフェート	0.01	○	○	○	○	○	○	クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	—	○
アラクロール	0.01	○	○	○	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	○	○	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	—	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	クロロクシロン	0.01	○	○	○	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○	○	シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	○	○	シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	○

表2 (続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					
		A	B	C	D	E	F			A	B	C	D	E	F
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンブプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	○	○	フルジオキソニル	0.01	○	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	—	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	プロバホス	0.01	○	○	○	○	—	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	ブロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	—	○	—	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	○	—	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	○	○
ビリダベン	0.01	○	○	○	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○	○
ビリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○	○	—	○
ビリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○	○
ビリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	○	○
ビリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	—	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○	○	○
フィプロニル	0.002	○	○	○	○	○	○	リニュロン	0.01	○	○	○	○	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○	○	○	○	○
フェントロチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	ルフエヌロン	0.01	○	○	○	○	○	○
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	○	○
フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○	○								

農産物の種類 A:こまつな、にんじん、ピーマン B:とうがん、なす C:かんしょ、ばれいしょ
D:きゅうり E:えだまめ F:すいか

○:実施、—:実施せず

*DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年9月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和7年9月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和7年9月に追加・更新した主な記事は、6件でした。

掲載月日	内容
9月1日	熱中症情報(2025年9月1日)
9月5日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第8回)
9月8日	熱中症情報(2025年9月8日)
9月16日	感染症に気をつけよう(9月号)
9月16日	熱中症情報(2025年9月16日)
9月22日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第9回)

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/inf-c-kabaikai.html>

熱中症情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/heatstroke.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

ソーシャルメディア

https://www.instagram.com/eiken_yokohama_official

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年9月）

《今月のトピックス》

- 百日咳の報告が依然多い状態です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く発生し、10歳代の報告もみられます。
妊婦の報告も複数みられます。
- RSウイルス感染症の報告が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2025年8月25日～9月21日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件
腸管出血性大腸菌感染症	30件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
日本紅斑熱	1件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	7件	梅毒	32件
アメーバ赤痢	1件	百日咳	155件

- 細菌性赤痢**:50 歳代で、感染経路はその他(河川での遊泳)、感染地域はインドネシアと推定されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症**:10 歳未満～70 歳代で、O 血清群は O157 が 24 件、O26、O103、O111 がそれぞれ 1 件、O 不明が 3 件です。感染経路は経口感染と推定される報告が 10 件、接触感染と推定される報告が 2 件、経口感染・接触感染と推定される報告が 1 件、経口感染・動物等からの感染が推定される報告が 1 件、感染経路等不明の報告が 16 件です。
- E 型肝炎**:50 歳代で、無症状病原体保有者です。感染経路等は不明です。
- デング熱**:10 歳代で、感染経路は海外(フィリピン)での蚊からの感染と推定されています。
- 日本紅斑熱**:50 歳代で、感染経路は三重県・神奈川県での昆虫等からの感染と推定されています。
- レジオネラ症**:50 歳代～80 歳代で、肺炎型が 7 件です。感染経路は水系感染と推定される報告が 2 件、感染経路等不明の報告が 5 件です。
- アメーバ赤痢**:60 歳代で、腸管アメーバ症です。感染経路は経口感染と推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:50 歳代で、感染経路は医療器具関連感染と推定されています。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:10 歳未満及び 70 歳代で、血清型はいずれも A 群です。創傷感染と推定される報告が 1 件、感染経路等不明の報告が 1 件です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:70 歳代で、無症状病原体保有者です。感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10 歳未満～90 歳代(ワクチン接種歴 4 回 1 件、無 1 件、不明 2 件)で、感染経路は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が 2 件、感染経路等不明の報告が 2 件です。
- 水痘(入院例に限る)**:10 歳未満(ワクチン接種歴 2 回)で、感染経路等は不明です。
- 梅毒**:10 歳代～80 歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期 15 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 8 件、無症状病原体保有者 9 件です。性的接触による感染と推定される報告が 27 件(異性間 19 件、同性間 4 件、詳細不明 4 件)、感染経路等不明が 5 件です。
- 百日咳**:10 歳未満～90 歳代(ワクチン接種歴 5 回 1 件、4 回 53 件、3 回 4 件、2 回 1 件、1 回 1 件、無 10 件、不明 85 件)で、家族内感染と推定される報告が 36 件、周囲の流行と推定される報告が 15 件、家族内感染及び周囲の流行が推定される報告が 2 件、感染経路等不明の報告が 102 件です。

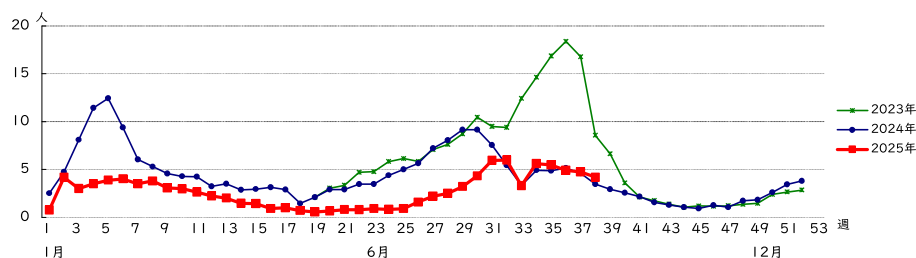
◇ 定点把握の対象

※ 2025 年第 14 週(3 月 31 日～4 月 6 日)以降、小児科定点は 94→51、
内科定点は 59→39 医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2025 年第 35 週	8 月 25 日～8 月 31 日
第 36 週	9 月 1 日～9 月 7 日
第 37 週	9 月 8 日～9 月 14 日
第 38 週	9 月 15 日～9 月 21 日

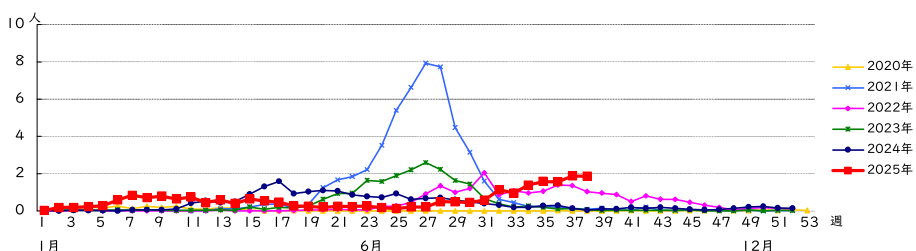
1 新型コロナウイルス感染症

2025 年第 25 週(6 月 16 日～6 月 22 日)以降増加傾向に転じ、第 31 週以降はおおむね横ばいから緩やかに減少しています。第 38 週は 4.19 です。



2 RS ウイルス感染症

2025 年第 26 週(6 月 23 日～6 月 29 日)以降増加傾向となり、第 38 週は 1.86 です。



3 性感染症(2025 年 8 月)

性器クラミジア感染症	男性:34件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:14件	女性:12件
尖圭コンジローマ	男性:24件	女性: 0件	淋菌感染症	男性:13件	女性: 5件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.50	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.50	1.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2025年8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2025 年第 35 週～第 38 週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点 115 件、小児科定点 6 件でした。

10 月 7 日現在、表に示した各種ウイルスの分離 5 株及び遺伝子 36 件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025 年第 35～第 38 週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	1 11	
インフルエンザウイルス AH1pdm09	1 -	
RSウイルス	- 7	- 3
パラインフルエンザウイルス 3型	- 1	
アデノウイルス 2型	- 1	1 -
アデノウイルス 3型	1 -	
アデノウイルス 54型	- 1	
ヒトメタニューモウイルス	- 1	
ライノウイルス	- 5	- 2
ライノウイルスまたはエンテロウイルス	- 4	
コクサッキーウイルス A16型	1 -	
合 計	4 31	1 5

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2025 年第 35 週～第 38 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 25 件、細菌性赤痢 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3 件、侵襲性肺炎球菌感染症 2 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1 件、菌血症（メタロ β -ラクタマーゼ産生 *Achromobacter* sp.1 件）でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症 7 件、レプトスピラ症疑い 2 件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎 5 件、「ARI 定点」から 3 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025 年第 35 週～第 38 週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症		25	O157 : H7 VT1 VT2	(5)
				O157 : H7 VT2	(11)
				O157 : H－ VT1 VT2	(2)
				O157 : H－ VT2	(1)
				O103: H2 VT1	(4)
				O26 : H11 VT1	(1)
				O111 : H－ VT1 VT2	(1)
	細菌性赤痢		1	<i>Shigella sonnei</i> II 相	(1)
保健所	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		3	A群溶血性レンサ球菌 T4型	(2)
				A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	(1)
	侵襲性肺炎球菌感染症		2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 6c型	(1)
				<i>Streptococcus pneumoniae</i> 24B型	(1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		1	<i>Klebsiella aerogenes</i>	(1)
		菌血症	1	<i>Achromobacter insolitus</i> blaIMP-1	(1)
分離同定		項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所		レジオネラ症	7	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2) レジオネラ属菌培養 陰性 (5)
		レプトスピラ症疑い	2	尿・血液	レプトスピラ遺伝子陰性 (2)
小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	A群溶血性レンサ球菌 T4	(3)
				A群溶血性レンサ球菌 T12	(1)
				培養 陰性	(1)
ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	3	百日咳菌遺伝子	陰性 (3)
				肺炎マイコプラズマ遺伝子	陰性 (3)
				溶血性レンサ球菌 培養	陽性 (1)
				溶血性レンサ球菌 培養	陰性 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】